

庄川扇状地に位置する大門漁業協同組合では、アユの稚魚を育成するため、最大で1日3400トンもの地下水を汲み上げています。

豊富で清らかな庄川の伏流水の恵みを受けて、住民の暮らしは代々受け継がれています。

Q. 大門の水の豊かさについては？

A. 私は大門に生まれ育ち、明治時代からアユ、サケ、マス漁業を生業とする家の5代目にあたります。地域ではみな古くから、漁や砂利の採取を通して、庄川の恩恵を受けて暮らしてきました。まさに射水の名の如く、ポンプで掘れば地下水が豊富に自噴します。私の自宅では、現在も井戸水を炊事や風呂に利用しております。

大門漁業協同組合では、地下50mから汲み上げる地下水を利用して、アユの稚魚の「中間育成」を行っています。アユという魚は、秋に川で孵化してすぐ体長4ミリほどの小さな姿で海へ下り、春に水温が温かくなってから川に遡上します。

この施設では、それまで海水で育てられていた体長2～3cmほどの稚魚を冬場に受け入れ、淡水に切り替えて育てます。大門の地下水は、ミネラルが豊富なため、稚魚が海から川へ遡上する自然界とほぼ同じ条件で育成することができます。つまり、大門の水は、アユの稚魚の育成に最適なのです。庄川ブランドのアユがおいしいのは、やはり水がおいしいからでしょう。

庄川の豊かさをいつまでも感じて暮らしていきたいですし、将来もアユがたくさん戻ってくる庄川であってほしいと願っています。



大門漁業協同組合
代表理事組合長
鏡時夫さん



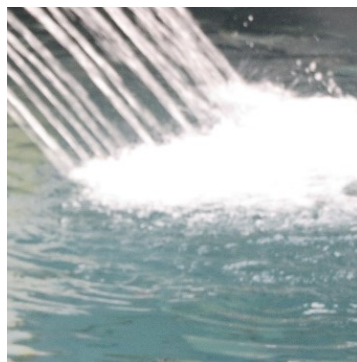
大門の豊かな地下水で、アユの稚魚を体長12-13cmになるまで育成。
4月半ばから6月にかけて、射水、南砺、小矢部の庄川水系へ放流する。

Q. アユを育成した地下水を、地域の消雪に？

A. 庄川のアユは、きれいな水でないと育ちません。このため、養殖に使う地下水は温泉でいうところの「源泉かけ流し」で、一回限りで排水します。もったいないですよ。

そこで、冬にはその地下水を二次利用して周辺地区の道路の消雪にも役立っています。地下水は、年間を通して水温が14℃と一定で温かく、雪がよく解けると地域の皆さんにも喜ばれています。

事業者の責任において、将来のアユのためにも地下水を効率よく利用していきたいです。



アユの育成に利用した地下水は、大門漁業協同組合のある庄和地区の道路の消雪に利用されている。